

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	一般財団法人 河田病院	代表者	河田 隆介	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り、ご利用者様のご要望に応じ、ご利用時間の調整を致します。</li> <li>・シルバーリハビリセンター（SRC）との連携しADL向上、生活の質の向上を目指します。</li> <li>・看護師による通院介助にて病状を把握、職員に周知し病状にあった支援を致します。</li> <li>・全職員が利用者一人一人の特性を把握し個人の思いや希望を叶えるよう努力します。</li> <li>・地域の中で安心して生活できるよう地域の力を繋ぎ結び付け地域の人と共に支えます。</li> </ul>
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 アサガオ	管理者	楫野 義浩		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	6人	4人	人	人	1人	人	1人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	「個別ケアの充実」を理念としケースカンファを継続、必要に応じケア方法の変更を即時行い利用者に快適な在宅生活を営んで頂く。	個別ケア会議は毎月実施しており、ケア方法の変更や追加を実施モニタリングを行い、利用者が過不足なく快適な生活を営めるよう努めており、継続していく。	情報の共有はきちんと出来ているのか。一体感がないと思われる部分については情報共有がなされてないのではないかな。	個別ケア会議にてどの職員もが自由闊達な意見が述べる事の出来る環境作りをする。  これくらいはいいだろう、連絡・伝達するのを忘れていた、といった事を無くす事で職員間連携の機能強化を図る。
B. 事業所の しつらえ・環境	民生委員や地域の代表の方々とコミュニケーションをとる。定期的に会合を開き情報収集に努め、地域資源の掘り起こしを行い、利用者には有効な資源については活用させて頂く。 地域交流スペースをつくり、地域の方々に利用して頂く。	地域の方々とのコミュニケーションが取れていない。 地域の会合等にも参加出来ていない。	河田病院の入院病棟1階にあるが、病棟自体が奥にあるため場所が分かりづらい。 茶室を開放して地域の交流の場所としてはどうか。 日中、玄関に鍵がかかっている事についてはソフト面で対応してはどうか。	基本中の基本だが、アサガオ来退所の挨拶の励行。たとえ洗い物をしていても相手に聞こえるように、笑顔で挨拶を行う。 入りやすい雰囲気を作るため随時見学受付中の看板を設置し話しやすい雰囲気を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	民生委員や愛育委員、老人クラブの方々など地域を代表する方々と定期的に会う会合を作る。まずは小規模多機能型居宅介護事業所とはどんなところか、アサガオでは何をしているかを知って頂く。 「介護相談受け付けます」や「ご自由に見学してください」といった看板を掲げ話しやすい雰囲気を作る。	地域の方々への小規模多機能型居宅介護とはどのような施設なのかを説明出来てない。 介護相談受付や見学受付等の看板設置も出来なかった。	総合相談所のようなものを設けてはどうか。そこでアサガオでは何をしているかを説明してもらおう。 河田病院に入ってきて地図を見てもアサガオは分かりづらい。	地域を代表する方々との接点を作り、まずはアサガオでの活動内容を、回覧板等を利用し周知する。 会合があれば、アサガオでの活動内容を説明させて頂く。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	石井学区での年間行事をおさえる。 参加できる行事には利用者と一緒に参加する。 事前に下見などし準備にも参加する。	学区内での年間行事を抑える事が出来なかった。	小規模多機能と言われても一般的にはどのような施設なのかわかりづらい。	石井学区内の年間行事を知っておく。 利用者が参加出来る学内の行事に参加する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	アサガオ受付に相談窓口の看板を設ける。相談に乗れない職員のいるためその場合は、連絡先を聞いておき、あとで相談に乗るなどしてより親近感をもてる対応をとる	相談窓口の看板設置は居宅介護支援事業所「ねこの手」もあり設置には至らなかった。	場所が分かりづらい、小規模多機能とは何か。もっと地域に活動内容や場所などを地域の人に知ってもらう必要がある。	アサガオ玄関に「見学随時受付中」の看板を設置し近隣の方々に存在を知って頂く。 回覧板や会合出席にて事業所のサービス提供内容を知って頂く。
F. 事業所の防災・災害対策	民生委員や愛育委員の方々に、河田病院やアサガオなどが緊急避難場所にもなる事を伝え近隣の住民の集まりがあるときは、説明する。	岡山市指定の避難場所にはなっていないが避難してきた方々を受け入れる事の出来る施設である事の周知、説明をする機会なかった。	アサガオ自体が災害時の避難場所になっていない。	災害時には河田病院も含め避難場所になり得る事を周知していく。

